

KUCAヒアリング資料(R3/6/17)に対する質問リスト

NO		質問	ページ	該当箇所	回答	備考
1	事実確認	起動用中性子源について以下の点を説明すること。 ①構造 ②中性子強度(設置当時と現在のAm-Beの放射能強度) ③炉心構成における設置可能範囲 (設置範囲については、代表炉心の中から水平方向の断面積が最小と最大の炉心について、炉心と中性子源の相対位置、垂直方向の設置高さが分かる図面を添付)	資料1	4-1		
2	事実確認	燃料1体が誤装荷されたケースについて解析結果が示されているが、通常運転の状態を確認するため、誤装荷燃料がない通常状態での解析を示すこと。炉心の過剰反応度は0.35%Δk/kとする。(炉心L5.5-30)	資料1	4-1		
3	事実確認	事故解析の初期条件として、0.01Wになるよう中性子源強度を調整しているとしているが、実際の運転において線形出力系の出力がこのレンジ以下になっていることをレコーダの記録などを用いて説明すること。	資料1	4-1		
4	事実確認	線型出力系レンジのフルスケールに対応する出力の範囲について、評価の方法を説明すること。また、高濃縮の具体的な炉心について例示すること。	資料1	4-1		
5	事実確認 (起動時の誤引抜き)	起動時の制御棒の誤引抜き(1-1)において、初期出力を0.01Wとしているが、中心架台を全挿入し、全挿入されてる3本の制御棒を順次引き抜く段階での出力がこのオーダーになっていることを説明すること。(燃料の誤装荷と起動時の制御棒誤引抜きの事象の解析条件の整合性)	資料1	1-1		
6	解析条件	中心架台の反応度解析の誤差が与える影響について示すこと。(表7-4、表7-5)	資料	4-1		

KUCAヒアリング資料に対する質問リスト

NO		質問	ページ	該当箇所	回答	備考
1	事実確認	(3)実験物破損条件として「10%が放出」とあるが、10%とは、どのような考え方により設定された数値なのかを説明すること。	10	6/23 資料1 4-3		
2	解析条件	燃料の機械的破損 代表炉心の中から臨界質量が最小の炉心を選定して解析しているが、燃料1体が破損した場合に放出されるFPが最大となるのが最小(臨界)炉心であることを詳しく説明すること。 (単位出力当たりの燃料体1体毎の出力割合が最大となっていることを示す必要がある。)	3	6/23 資料1 4-2		
3	解析条件	実験設備、実験物の著しい損傷において、熱中性子の核分裂断面積とサンプル資料の重量の積からFP量の多い代表炉心を選定しているが、スペクトルの硬い炉心等で熱外中性子あるいは高速中性子の影響があるのではないか。この効果について説明すること。	10	6/23 資料1 4-3		
4	事実確認	照射物と挿入管の組合せのうち、軽水減速炉心において、挿入管を使用せず、照射物を使用する時の反応度は、どのように考えられているのかを説明すること。	12~14	6/17 資料2		
5	解析条件	実験物の異常等による反応度の添加について、挿入管の反応度制限を0.5% $\Delta k/k$ とする場合は、水の侵入などによるランブ反応度添加を想定して解析し、その影響について説明すること。	30	6/3 資料1		